



# 学校図書館 司書だより



## 本と読書

今回は、学校図書館の本の修理や蔵書点検でお世話になっている図書館ボランティア「顔クラブ」の福田陽次さんと河村桂子さんにお話を伺いました。

司書／子ども達の読書活動を支えて頂きありがとうございます。長い人生の中で本の付き合い方は年齢や環境と共に様々に変化すると思います。今回はそれをテーマにお話を伺います。はじめにボランティア活動をはじめられたきっかけを教えてください。

福田さん／平成十四年に、市立図書館のボランティア募集に応募したのがきっかけです。その時集まった仲間で「顔クラブ」がスタートし、現在は十数名で活動しています。河村さん／私は勤務先に近い図書館でボランティア活動があることを知り、参加するようになりました。

司書／どのような活動をされていますか？

福田さん／発足当時は市立図書館の日常業務をお手伝いしていました。ある時、ボランティア仲間のお孫さんが借りてきた学校図書館の本が傷んでいたため、修理のお手伝いができるのでは...と活動の一つになりました。今では活動の中心になっています。

司書／ひと月に一校ずつ、市内の小学校が順番にお世話になっていますね。修理をしながらお気づきのことがあれば教えてください。お二方／何度も修理を重ねた本が多いし、汚れが気になる本もありますね。修理が終わるとクリーナーで表面を掃除します。スッキリしますよ。

司書／人気がある本は傷むのが早いです。もちろん、たくさん読んでもらえるのは嬉しいですが...。近頃は、再購入したい書籍も電子書籍でしか入手できないものが増えていきます。古くても修理をして子ども達の図書館に置いておきたい本があるので、皆様には感謝の気持ちでいっぱいです。修理の手前「大切に扱うこと」も努力したいと思っています。他にはどのような活動をされていますか？

福田さん／郷土カルタを製作しカルタ会を開催したり、毎年十月には「リサイクル市」を開催したりしています。市民の皆さんから集まった不要本や市立図書館の廃棄図書を分別し準備をします。今年も開始時刻の前に八十名近くの方が並ばれ、とても賑わいました。小さなお子様連れの方も多かったですね。

司書／毎年、リサイクル市を楽しみにされている方がいらっしゃるのですね。私も、掘り出しものを見つけた喜び、本と人との新しい出逢いの場を作って頂き、ありがとうございます。それでは、ご自身の本の付き合い方や読書について伺えますか？

福田さん／子どもの頃はとにかく伝記が好きで片っ端から読みました。朝ドラ「らんまん」の牧野富太郎や間宮林蔵、野口英世、リンカーン...。太田小学校に通っていました。が今でも図書館へ向かう途中の階段の景色が記憶に残っています。

学生時代には『一日一冊』と目標をたて読書をしたこともあります。ジャンルにこだわらず色々読むことで新しい気づきもありました。読んでいるうちに好きになった作家は、五木寛之さん、松本清張さん、大江健三郎さん、司馬遼太郎さんなどです。河村さん／小さな頃はお姫様が出てくる童話に憧れていました。はじめて自分で選んで買った本は「小公女セーラ」でした。

た。社会人になってからは曾根綾子さんや月刊誌「W」などを読むようになりました。家庭をつくった時のことを考え、独学でいろんな資格に挑戦した時には実用書や参考書が役に立ちました。つらい事ばかりでしたが、失敗してもがんばっていた時が、一番楽しかったです。今は農業で忙しいので、新聞もまとめて目を通すこともあります。新聞は情報のバランスが良いし、大切な情報が一目でわかるのでおすすめです。福田さん／新聞は記事の面積や文字の大きさ・見出しで、自然に重要な記事から順番に読むことになりましたよね。河村さん／連載小説も楽しみの一つです。

司書／小学生新聞にも連載小説やマンガ、クイズなど楽しい記事がいっぱいあります。時事問題もわかり易く、作る方の工夫と努力を感じます。最後に、これから読書にチャレンジされる方におすすめの図書などありましたら、ぜひ教えてください。

河村さん／忙しい方には、児童図書や中高生新聞、目まぐるしく変化していく今の時代を分かりやすく解説してくれる池上彰さんの書籍もおすすめます。世界が平和でありますようにお祈りします。

福田さん／とにかくいろいろな本を読んでみてほしいと思います。読んでいくうちに、新たな発見があると思います。そうして自分の世界を見つけてほしいと思います。



福田さん河村さん、ありがとうございました。

# 読書タイム

## 西中学校の図書室

文化委員 佐伯 友貴奈

みなさんにとって、本や図書室の魅力とは何ですか。

物語の世界に浸ることですか。漢字が得意になることですか。それとも、落ち着いて過ごせることですか。

私は一つに「興味のあることを追求する」つまり「調べる楽しさ」があると思うのです。

そこで、文化委員では九月に「みんなで学ぼう、防災特集」という取組を行いました。図書室の一角に防災コーナーを設置し、関連する本を文化委員の手作りポップや新聞と共に紹介するものです。

少し前、私は公民の授業で「選挙制度」について学び、課題である「なぜ選挙は大切なのか」について考えました。授業内容が少し難しいので理解を深めたい、調べたら課題に対する自分の考えが広がるだろうなと思い、図書室で本を借りて調べてみました。調べてみるとおもしろくて、新たな疑問が出てきてどんどん興味が広がります。

私はこの防災特集の取組を通して、「図書室にはこんな魅力があるよ」とわたしを経験している「楽しみ方」を伝えられたらいいなと思っていました。期間前の準備では、文化委員のみんなが学年関係なく楽しそうに活動してくれて

とても嬉しかったです。期間中は一人ですっきり特設コーナーを見てくれる人、友達と楽しそうに見てくれる人などの姿がありました。短い期間ではあったけれど、やってよかったなと思いました。

他にも、ハロウィーンに合わせて図書室の飾りつけをしたり、折り紙を折る憩いの場をつくったりしています。読み聞かせボランティアさんによる読み聞かせも楽しいです。

図書室は、学校の中で特別な場所だと思います。図書室に一步入ったとき、受け入れてもらえる安心感のもと、心ゆくまで過ごせる空間をみんなで作っていったらと思います。



防災特集  
コーナー



季節の飾り



みんなで  
作業中♪

### 『まぼろし写真館』

福 明子/作 小泉 るみ子/絵  
学研教育出版 ¥1,430-



「生きている間に見るものなんて、みんな、まぼろしのようなものさ…」というのが、まぼろし写真館の店主ひろむじいさんの口ぐせです。ある日、こわれた古いカメラを持って、これで写真を撮ってほしいという男の子が来ました。そのカメラは亡くなったお父さんの大切なカメラ。ひろむじいさんは、いつだって最高の写真をとってくれるのです。



### 『ちいさいフクロウとクリスマスツリー』

ジョン・ウインター/作 福本友美子/訳  
すずき出版 ¥1,650-



大きな木の穴の中でくらしていたちいさいフクロウは、ある日切り倒された木とともにどこか遠くへ運ばれてしまいます。大きな木はクリスマスツリーとして飾られることになるのですが、ちいさいフクロウはどうなってしまうのでしょうか。

これは2020年に本当にあったお話です。クリスマスの時期に友達や家族と読むのにおすすめです。



## この本 読んでみて!

### 『医師が教える子どもの食事50の基本』

脳と体に「最高の食べ方」「最悪の食べ方」  
伊藤明子/著 ダイヤモンド社 ¥1650-



子どもの体・心・脳・性格も、食べたもので決まる。だから、こんなものを、こんなふうに摂ってほしい。

医学的エビデンスに基づき、お悩みに効くかんたんレシピ、ちよい足しアイデアも紹介されています。



### 『チョコレート工場の秘密』

ロアルド・ダール/著  
評論社 ¥1,320-



チャーリーは7人家族。少ないごはんを分け合って仲良く暮らしている。いつも腹ペコのチャーリーにとってチョコレートは特別！誕生日の時くらいしか食べられないから。

ところがある時、巨大なチョコレート工場の見学に招待されて…!? あー「とろりめちゃうまめろめろファッジ」食べてみたいなあ！



このコーナーで本を紹介しているのは、市内の学校図書館司書3人と中央図書館司書です。